

# オノマトペから見る日本人の語彙

国語班：桑原大地 中村壮太 高里尚武 佐川萌花 坂本志保 田中葵

## 1. はじめに

新たな語が生まれる一方で、減んでいく語がある。私たちは、いわゆる死語について関心を持った。特にオノマトペに注目しアンケート調査を実施し、その結果をもとに考察した。

\*ここでのオノマトペは擬態語、擬声語を指している。

## 2. 調査 1

(仮説)

高齢者のみに使われるオノマトペがあれば死語になっていくのではないかと予想した。

(調査方法)

高津高校の生徒を含む 10 代～80 代に雨・歩く動作・頭、お腹、傷の痛みに関するオノマトペを回答するアンケートを実施。

(結果)

オノマトペの回答が少なく、副詞・形容詞などの回答が多く見られた。

## 3. 調査 2

(仮説)

オノマトペについて学校で学んでいないのではないかと予想した。

(結果)

全国の各小中学校の教育カリキュラム編成の基準となる文部科学省の学習指導要領にオノマトペについての言及は見られなくなった。

## 4. 調査 3

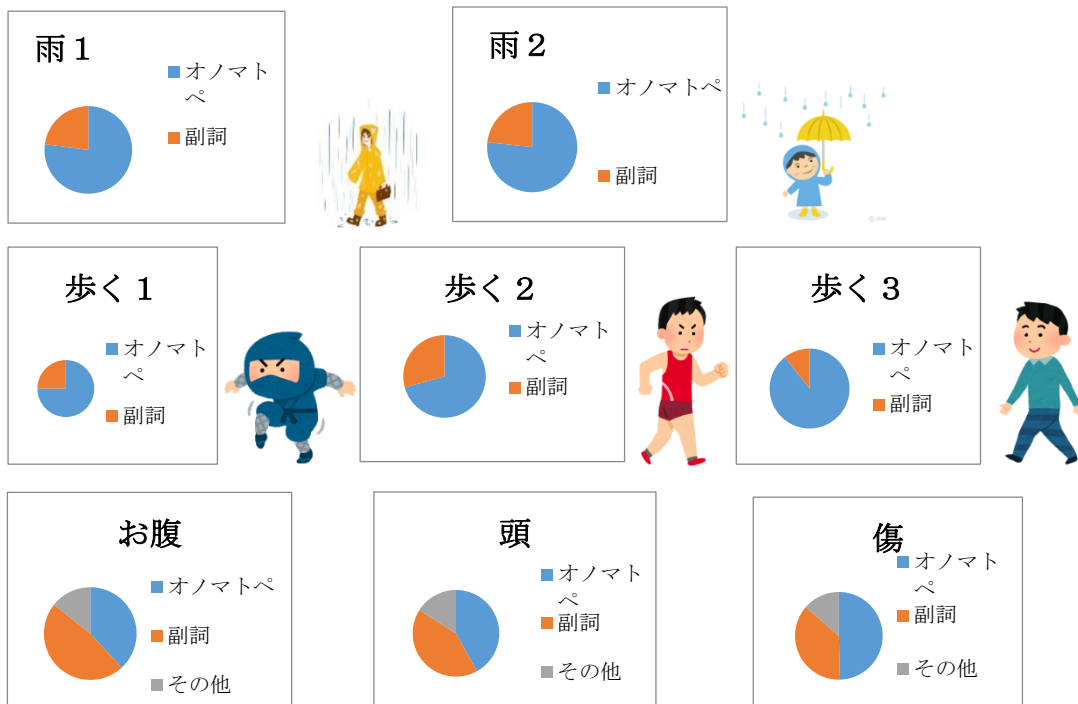
(仮説)

調査 2 から、オノマトペ自体が使われなくなっているのではないかと予想した。

(調査方法)

調査 1 では回答をオノマトペに制限していたが、この調査ではその制限をなくし、自由に回答できるようにした。

(結果)



雨:オノマトペが副詞より多くなった。

歩く:オノマトペが副詞より多くなった。

痛み:副詞がオノマトペより多くなった。

## 5. 考察

上記の結果より、質問の項目によってオノマトペを使用している割合に差が出たのは、日常での使用頻度が関係していると考えられる。

また、日常での使用頻度が少ないオノマトペはやがて使用されなくなると考えた。

## 6. 参考文献

文部科学省「学習指導要領」

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/youryou/chu/koku.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/chu/koku.htm)